



2024年10月にインド・ニューデリーで開催されたWTSA-24を経て、我が国から選出されたITU-T TSAG、SGの議長・副議長の皆様に、役職への抱負などを伺いました。



SG17 副議長（新任）

KDDI株式会社
いそはら たかまさ
磯原 隆将

〈プロフィール〉

専門領域：サイバーセキュリティ、ITSセキュリティ、標準化

2007年 慶應義塾大学大学院理工学研究科修了

2007年 KDDI株式会社入社。同年、KDDI研究所出向

2018年 ITU-T SG17に参画。ITSセキュリティとサプライチェーンセキュリティの標準化に従事

2024年 ITU-T SG17副議長就任（現在に至る）

—— 先のWTSA-24での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

磯原 標準化活動において新しい役割をいただいて挑戦できることにワクワクすると同時に、身の引き締まる思いがしています。この機会に恵まれたのは、国内外多くの諸先輩方・仲間から、多くのご指導とご協力をいただけたおかげであると感謝しております。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

磯原 サイバーセキュリティやITSのセキュリティの研究に従事する専門性を生かす形で、2018年からSG17に参画しております。ITSセキュリティを扱う課題13にてエディターを務めたほか、アソシエイトレポートとして議事運営にも寄与しました。

—— 新研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのようなこととお考えでしょうか。

磯原 重要テーマは、QKDやPQC等の量子関連技術、サイバーディフェンスセンター及びBeyond 5G/6G、AI、DigitalTwin等の新興技術と認識しています。これらについて、これまで日本が積極的に関与している領域で継続的な貢献を果たすことと、新興技術の的確なキャッチアップ

が重要になると考えております。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

磯原 SG17が有意義で楽しいコミュニティであると思ってもらえることに貢献したいと考えています。そのために、SG17内外の関係者と積極的に話をし、一緒に成果を獲得してゆく中で、実践的なスキルの獲得と発揮をできるよう活動します。

—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

磯原 それぞれ異なる価値観や事情を持つ加盟国が合意形成を目指す場における、分断への挑戦が最も難しい課題になると考えています。私自身は、各自の立場を理解した上で、自身の信念と意見を明瞭に示すことで建設的な目標達成を目指したいです。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

磯原 ICTのセキュリティは対象が非常に広いため、より多くの関係者のご理解の下、ご参画をいただきたいと思っております。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

磯原 どのような仕事に対しても、自分が面白いと思えることを見つけて楽しみ、それが伝わるように取り組むことが信条です。趣味はカメラを持って散歩や旅をすることで、いろいろな土地を知って非日常を過ごすことが良い気分転換になります。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

磯原 皆様からこれまでに寄せていただいたご理解、ご支援にしっかり応えられるよう、与えられた役目を務めてまいります。併せて、ぜひ世界における日本の活躍と一緒に盛り上げる新しい仲間もお迎えしたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします！



SG20 副議長（再任）

日本電気株式会社

やま だ とおる
山田 徹

〈プロフィール〉

専門領域：IoT・スマートシティ領域の標準化

- 1995年 横浜国立大学 工学部 電子情報工学科 卒業
 1997年 同大学院 工学研究科 電子情報工学専攻 博士課程前期修了
 1997年 日本電気株式会社（NEC）入社
 2013年 首都大学東京（現東京都立大学）大学院 システムデザイン研究科 博士課程後期 修了
 2015年 ITU-T SG20発足より参画
 2017年 APT ASTAP EG IOT議長に就任（現在に至る）
 2022年 ITU-T SG20副議長就任（現在に至る）

—— 先のWTSA-24での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

山田 ありがとうございます。総務省及び関係者の皆様からのご支援をいただき、2期目の副議長を担当させていただくことになりました。感謝の気持ちを忘れずに、1期目の経験を糧に更に尽力してまいります。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

山田 2015年のITU-T SG20発足当初から参加しております。複数の作業項目（Work Item）でエディタを担当してきました。2019年に前任の方から引き継ぐ形で暫定的にSG20副議長を担当し、2022年に開催されたWTSA-20にて正式にSG20副議長に就任しました。その他の機関では、APT ASTAPにおいてIoT分野の専門家グループの議長を担当しています。

—— 新研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのようなこととお考えでしょうか。

山田 2025年から始まる新研究会期から、ITU-T SG20のタイトル（SGの名称）に「デジタルツイン」が追記されました。新研究会期では、「デジタルツイン」やその応用としての「都市サービス向けメタパス」が重要テーマになると考

えています。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

山田 引き続きJCA-IoT, DT and SSC&Cの共同議長も担当することになりました（JCAもタイトルに「デジタルツイン」が追記されました）。この活動では、ITUや外部機関でのIoT、デジタルツイン、スマートシティに関する標準化動向を収集・分析し、標準化ロードマップを作成しています。この活動を通じて、「標準を作る」「標準を使う」だけでなく、標準化動向から未来を予測し、「先読み」することも意識していきたいと考えています。

—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうかお考えでしょうか。

山田 自社の利益の観点ではなく、公平公正の観点で議論を見ないといけない場面が出てきます。発言する際には、それが自社の立場に基づくものなのか、それとも副議長としての立場に基づくものなのか、状況に応じて明確にすることが重要と考えています。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

山田 ITU-T SG20は、スマートシティを担当している各加盟国の政府関係者が一堂に会する場であり、彼らと直接意見交換できる重要な機会を提供しています。日本のICT産業界の一員として、このプラットフォームを積極的に活用し、各国政府関係者と意見交換を行うことで、各国の都市が直面する課題に対する具体的な理解を深めることができると考えています。このような活動を通じて、日本のスマートシティソリューションの海外展開を推進するための足掛かりとなることを目指します。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

山田 ITU-Tの標準化会合への参加で何度となくジュネーブを訪ね、その街に愛着を感じています。ジュネーブという街に育ててもらったという想いもあり、所縁のあるものを身に付けたいとの気持ちから、ジュネーブの文具メーカー



「Caran d'Ache」のペンを愛用しています。出張のたびに購入し、コレクションに加えてきました。中にはITUの売店で購入したITUのロゴ入りのペンもあります。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

山田 ITU-T SG20は、IoT、デジタルツイン、そしてスマー

トシティといった重要なテーマを扱っており、この分野での日本の国際的なプレゼンスを高める絶好の機会を提供しています。多くの日本の産官学関係者の方々にITU-T SG20の会合にご参加いただき、日本の技術や取組みを世界と共有し、国際的な連携を深めるきっかけになれば幸いです。



愛用しているジュネーブのペン

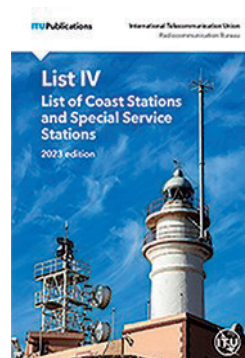
国際航海を行う船舶局に必須の書類 好評発売中！



-New!-
船舶局局名録
2024年版



-New!-
海上移動業務及び
海上移動衛星業務で使用する便覧
2024年版



海岸局局名録
2023年版

お問い合わせ: hanbaitosho@ituaj.jp





SG21 副議長（新任）

株式会社KDDI総合研究所

かわむら けい
河村 圭

〈プロフィール〉

専門領域：メディア符号化・ケーブル技術の研究開発、標準化

2010年 早稲田大学 国際情報通信研究科博士課程修了

2010年 KDDI株式会社 入社

2011年 ITU-T SG16に参画、以後H.265、H.266標準化に携わる

2020年 ITU-T SG9にラポータとして参画

2025年 ITU-T SG21 副議長就任（現在に至る）

—— 先のWTSA-24での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

河村 ご支援くださった総務省、IHSG9・SG16に参加する皆様に心から感謝します。この度の任命は、大変光栄であると同時に、責任の重さを感じております。これまでの経験を生かし、国際標準化の推進に努めてまいります。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

河村 専門はHEVCやVVCなど映像符号化方式の研究開発と標準化です。2011年からITU-T SG16とMPEG（ISO/IEC JTC 1/SC 29傘下の標準化団体）の共同検討チームJCT-VCやJVETでエキスパートとして提案活動をしています。2020年からITU-T SG9でもケーブル技術のラポータを務めていました。

—— 新研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのようなこととお考えでしょうか。

河村 H.265/HEVC、H.266/VVCに続き、約10年ぶりに標準化が開始される次世代映像符号化方式NGVCが挙げられます。また、符号化メディア真正性（Coded Multimedia Authenticity）とメタバースも重要なテーマです。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

河村 ITU-T SG21は日本提案を契機とするSG9とSG16の

統合により設立されました。産業界の要請に応じてSG内の課題所掌を整理し、勧告作成の効率化など、SG統合効果の創出に力点を置いて活動します。

—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうかお考えでしょうか。

河村 異なる視点や意見が存在する中で、合意形成のために共通目標を設定することの難しさが想定されます。9か月ごとに対面で開催されるSG21会合において、直接対話を通じた意見交換を促進し、相互理解を深めて信頼関係を築くことが重要です。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

河村 国際標準は自らの手で創出し、策定することが可能です。世界における社会課題を見据え、その解決に寄与する技術や枠組みの提案を期待しています。また、その実現に向けて必要な人材の交流と育成にも注力していただけることを願っています。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

河村 標準化活動における信条は「継続は力なり」です。新規作業項目の開始から合意まで最短でも2年は必要で、通常はより長い期間が必要です。プライベートな時間には、神田祭や町会活動を楽しんでいます。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

河村 皆様の継続的な関心や関与が、国際標準化の成功にとっては不可欠です。SG21の活動は本誌を通じて発信してまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。